四季の歌

心映の投句

俳句・短歌教室の詠歌紹介

ともしび短歌会短歌詠草

散りつくす花水木の梢の先花芽あまたに春の待たるる　白石　信子
吾が知らぬ草の名前をあまた書き教えくれたる人今は去り　佐竹喜久雄
長唄をラジオの深夜便に聴きここちのよさにいつしか眠りぬ　辻田　幸也
足の甲の腫れようやくに治まりぬ労らざりしを悔ゆるのみなる　武藤　鶴代

福智町金田公民館俳句教室　岩井鬼童選

呼び声のごとき船笛春迎ふ　日比生利子
鬼やらい大きな声も撒きにけり　建部三由紀
ウインドに満艦飾の春着かな　松岡　蔦枝
山ん子に雪ん子風ん子みんな来る　永尾喜美江
六根に大地の鼓動春近し　長副美恵子
巡り来る幸せのごと笹子鳴く　迫田　昌子
寒涛に尖る言葉や漁師町　今井三千代
かくれんぼ遊びの鳥や浮き沈み　畠山　玲子
胸の修羅追ひだすごとく豆を打つ　小川　雪
支へられ試歩伸ばしけり春隣　花石かほる

方城句会　池田一歩選

吾を見舞ふうからやからや冬帽子　松本美根弥
葉牡丹の渦のきらめき雨雫　野村　鈴子
帯〆を少し派手めに春立つ日　長尾　冴子
探梅や迷ひ込みたる獣道　桑野　昌宜
昨日より畳の一目日脚伸ぶ　白石　凡子
春耕やいつもの鳥の来て遊ぶ　渡邊　一枝
寒明けの日を大切に使ひ切る　尾崎　和子
小寒に沈みて暗き一軒家　藤井耿之介
連れ立って言葉に思案寒見舞　杉　フジエ
病窓の春の天気を心待ち　倉石嘉代子
春の雪ところどころに土の色　木村　誠一

隣保館・みのり句会　池田一歩選

庭先に春の息吹のありにけり　森　玲子
蕗の薹入れ朝がゆの香りかな　小笠原雄子
旬の物探しに出掛け摘草を　久松ミサオ
新雪の峰に真向ひ誓ふこと　小場　妙子
俳友は永久の眠りに鶴帰る　丸山　鈴子
一年の無沙汰を詫びて雛飾る　吉田　弘
野水仙豊漁旗の舟かへる　安田　健一
試歩の杖休ませてゐる犬ふぐり　大久保幸子
春雪や絵画のやうな狭庭かな　亀谷千恵子
恙身のきしみ柔ぎ日脚伸ぶ　池田　駒女

福智の風

観光で大成したまちの共通点は「公共投資ではなく民間資本主体」という教訓でした。逆に民間資本は想像以上にシビア。そこに魅力や勝算がなければ、決して進出に踏み切りません。かつて「県内の山里に本格的な湯宿を建てたい」という人がいましたが、残念ながら福智町はその候補地にすら名を連ねませんでした。全てを担って莫大なリスクを負うのではなく、全てが好転する条件整備を行うのが行政の役割だと、今回の特集で学びました。（長野）

▶昨年のちょうど今ごろ、惜しまれながらその役目を終えた平成筑豊鉄道のちくまる号。ちくまるくんが大好きな子どもたちからの復活を望む声が届いて、新たなちくまる号が登場することになりました。先日、届いたばかりのまだ真っさらな車両を撮影しました。車両は試運転と整備を経てから、ちくまるくんのラッピングが施されます。どんなちくまる号になるのかは、4月号で紹介する予定です。お楽しみに。（昌太郎）

▶右手中指に今も残っている爪痕―2月6日に亡くなった祖母には私をはじめ6人の孫がいて、受験生以外全員にこの爪痕が残っています。それは祖母が最期に苦しみながらも懸命に生きた証であり、私達が入れ替わりに手を握りしめ看病した愛情の証。多くの仕事を愚痴もこぼさず1人でこなし、常に前向きだった祖母はみんなから慕われる存在でした。そんな祖母を目標に、恥ずかしくない生き方をしていかなければと思います。（日吉）

1 魂のこもった迫力の演奏。2 3 4 5 第一部を飾った町内合唱団（上から）方城老人大学コーラス教室、グリークラブカナダ、ムジーク・プラッツ、ベル・アルモニア赤池。6 ピアノ演奏羽仁さん㊨との軽妙なトークで会場を沸かせた。7 最後は観客席に座り、一緒に合唱した田中さん。

Pickup Topics ピックアップトピックス

●第2回 福智町音楽祭

主催／福智町・福智町教育委員会

歌も心も響きあった

町内合唱団の美声や心温まるメロディーが響いた音楽祭。南米発祥の縦笛「ケーナ」の奏者として有名な俳優の田中健さんを迎えた音楽の一大イベントは、舞台と観客の心を一つにし、夢のハーモニーを奏でました。

偉大な童謡作曲家の生誕地にふさわしく、盛大に開催された福智町音楽祭。2月15日、会場となった同和対策研修センターの客席は、立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。2部構成の第1部は「ふくちの歌声」。町内合唱団の「方城老人大学コーラス教室」「グリークラブカナダ」「ムジーク・プラッツ」「ベル・アルモニア赤池」が息の合った自慢の歌声を披露しました。続く第2部は、雄大なイメージの名曲「コンドルは飛んでゆく」で幕を開けた「田中健ケーナコンサート」。ジャズピアニストの羽仁知治さんの伴奏で童謡やオリジナル曲など全9曲が奏でられました。素朴で懐かしさを誘うメロディーに、客席からは思わず口ずさむ声も…。演奏の後に詩の朗読を披露した田中さんは「童謡は子どものころの原風景をよみがえらせてくれる。長い間、人々に愛された童謡を作った河村光陽は本当に偉大です」と童謡へのあこがれと、福智町が生んだ作曲家に思いをはせました。フィナーレでは、その河村光陽作曲の「かもめの水兵さん」と「ゲットバイ」を全員で合唱。4百人以上の歌声が響き、会場は一体感に包まれました。

「田川はとても懐かしいです」。35年前に「青春の門」で俳優として脚光を浴びた田中さん。田川ロケでのエピソードや家族のことなどを観客席まで降りて、気さくに語りかけました。